

令和6年度置賜文化ホール自主事業

和泉流狂言

附子

野村万蔵

伝国の杜

# 能・狂言公演

金剛流能

船弁慶

白波之伝

金剛龍謹

昔もいまも変わらない人間の姿が面白い

開けてはいけぬ桶ぞ

開けてみたくなつた従者たぢ

前半  
— 義経との別れを憂う静御前の舞

後半  
— 荒海で襲いかかる怨霊との対峙

令和6年 9月7日 土

13時30分開場 14時開演

《会場》伝国の杜置賜文化ホール  
(山形県米沢市丸の内 1-2-1)

《チケット》 **全席指定** 一般 4,000円 高校生以下(5才以上) 1,500円

- ・伝国の杜ファンクラブ会員は一人につき4席まで10%割引
- ・公演日に5才未満のお子様は入場できません。
- ・託児ご希望の方は伝国の杜へお申込み下さい。(有料・9月1日締切)
- ・チケット販売・問合せ：伝国の杜 Tel: 0238-26-2666

《主催》公益財団法人米沢上杉文化振興財団

上杉敏子基金青少年招待事業

置賜の小中高生と保護者のペア30組60名様をご招待します。

ご希望の方は右記QRコードを読み取り専用フォームで申し込んでください。  
8月10日から先着順で受付。定員に達した場合は締め切ります。



招待事業応募フォーム



アクセス

〔JR〕米沢駅から2km、タクシー10分またはバス「上杉神社前」下車。  
〔車〕東北中央自動車道 米沢中央ICから4km。

狂言「附子」

ある家の主人が家来の太郎冠者と次郎冠者に留守番を言いつけます。主人は黒い桶を二人の前に置き、中にはその桶の方から吹く風にあたるだけで死んでしまう猛毒の「附子」が入っているので、決して近づかぬようにと念を押し出て出かけて行きました。(附子)のことが気になって仕方がない太郎冠者は、次郎冠者に協力させ桶の中を確かめてみると……。

『沙石集』や『休諸国物語』にも類話がみられ、現代では「休さん」として話でも知られる親しみやすい狂言です。

能「船弁慶」

源義経は、兄・源頼朝との不和から都落ちを余儀なくされ、武蔵坊弁慶らわずかの供を連れて摂津の大物の浦へと向かいます。途中、都へ帰るようになと諭された静御前は、別れの酒宴で舞を舞い、再会を信じて涙ながらに立ち去っていきます。義経一向の船が海上に出ると間もなく、静かな海上は俄かに黒雲がたちこめ、暴風雨となって荒れ狂い、滅亡した平家の大將・平知盛の亡霊が現れ長刀を振りかざして義経に襲いかかりますが、やがて弁慶の法力によって引く袂に流されて消えていくのでした。

小書「白波之伝」は金剛流ならではの特殊演出で、舞の型や動きが多く盛り込まれ、謡に緩急がくなど、見どころの多い演出となっています。

番組

演目解説

種田道一

仕舞

竹生島

豊嶋晃嗣

雪キリ

種田道一

殺生石

宇高竜成

狂言附子

主

石井康太

河野佑紀

後見 野村拳之介

休鵝

源義経 金剛謹一朗

静御前 金剛龍謹

船弁慶 平知盛

白波之伝

武蔵坊弁慶 宝生常三

船頭 野村拳之介

後見 廣田幸稔

宇高德成

能

船弁慶

大鉄 大倉慶之助 大鉄 梶谷英樹

小鼓 曾和伊喜夫 笛 栗林祐輔

小關脩太郎 金子 晃

齋藤 忠 豊嶋晃嗣

山田伊純 種田道一

惣明貞助 宇高竜成

終演予定 16時30分

15時00分

14時40分

14時22分

14時10分



一九六五年生まれ。萬狂言「万蔵の会」主催。国内外にて公演を行ない、新作の創作・演出も多し。手掛け、流派を越えた「立合狂言会」や「南原清隆さん」と「現代狂言」を発足させるなど、狂言の普及と発展に尽力している。二〇二二年文化庁芸術祭大賞、東京藝術大学講師、重要無形文化財総合認定保持者。



金剛流 能 船弁慶 金剛龍謹 ことつたり

一九八八年、金剛流二十六世宗家金剛永禪の長男として京都に生まれる。幼少より、父・金剛永禪、祖父・二世金剛殿に師事。五以後「石橋」「鶴」「釣」「乱」「道成寺」「望月」「安宅」など数々の大曲を披く。自らの芸の研鑽を第一に舞台を勤め、全国、海外での数多くの公演に出演。新作能や様々なジャンルとのコラボレーションなど、既存の能の形にとらわれない新たな試みにも挑戦。また、大学での講義や部活動の指導、各地の小中学校での巡回公演に参加するなど若い世代への普及に努める。自身の演能会「龍門公益財団法人金剛能楽堂財団理事。京都市立芸術大学非常勤講師。京都市文藝奨励賞受賞。重要無形文化財総合認定保持者。